



サステナビリティレポート2022

 **中道リース株式会社**



経営の理念

『わが社は事業を通じ、社会の発展に貢献する。』

1. 業績を高め、株主の期待に応える。
2. 従業員の生活向上と働きがいある企業づくりをめざす。
3. 取引先との共存共栄をはかり、社会との連帯を深める。

基本方針

わが社は『経営の理念』のもと、緑豊かな地球を次世代に引き継ぐため、リース事業を幹とした金融サービスを通じ、適切な品質提供と環境保全に取り組めます。

この方針は、全役職員への周知徹底とともに、法令及び当社が同意するその他の要求事項の順守を根に適切性維持のため見直し、継続的に改善します。

品質方針

- ◎ 地域営業基盤を強化するとともに顧客サービスの継続的改善をめざします。
 - * 顧客ニーズへの適切な対応
 - * 迅速な顧客対応
- ◎ 営業資産の健全化と与信管理の充実をはかります。

環境方針

- ◎ 環境負荷の低減を図り、循環型社会の形成に寄与します。
 - * 省資源・省エネルギー・再資源化の推進
 - * 環境汚染予防の推進

本方針書は、社内外に公表します。

2022年3月17日
中道リース株式会社

代表取締役社長 関 崇博

2030年の目指す姿

ビジョン

中道リース

vision2030

地域・社会に元気と価値ある変化を届けます
～あなたと目指すサステナビリティ～

私たちは、サステナブルな社会や環境の実現に向けて、ステークホルダーと知恵を出し合いともに歩み、
2030年の社会と地域に元気と価値ある変化を提供します。

サステナビリティ基本方針

私たち中道リースは、ステークホルダーが抱える課題解決にともに取り組み、持続可能な事業活動を推進して参ります。
基本方針は環境方針を改めています。

お客様(ユーザー)

私たちは、安心・安全に利用できる金融サービスやそれに纏わる適切な情報を提供し、誠実かつ倫理的に事業活動を実施します。
また、変化するお客様ニーズに応じて多様なサービスを展開し、お客様とともに成長して参ります。

サプライヤー

私たちは、自由で公正な取引を通じ、長期的な視野の下でサプライヤーとともに成長し、企業価値を高め合えるよう努めます。

従業員

私たちは、従業員の安全衛生と心身の健康を企業づくりの礎と考え、公正・適切な処遇のもと、能力開発に積極的に取り組み、多様な人財の活躍促進と、元気で働きがいのある職場づくりに努めます。

株主/金融機関

私たちは、適時かつ適切で透明性の高い情報開示を行うとともに、株主や金融機関との対話により、長期的な目線での企業価値向上に努めます。

地球環境

私たちは、脱炭素社会や資源循環型社会への移行に向けて、地球温暖化対策や3Rの推進など、事業を通じてサプライチェーンにおける環境負荷を低減させるとともに、ステークホルダーと連携しながら地球環境と調和した持続可能な成長の実現を目指します。

地域社会

私たちは、社会の良き一員として、地域の伝統・文化・習慣・価値観を尊重し、事業を通じて元気な地域づくりに貢献します。

マテリアリティ(重要課題)

中道リースは、サステナビリティ戦略として「長期ビジョン」「サステナビリティ基本方針」の策定に加え、将来のビジネスにおけるリスクや機会、ステークホルダーへの影響を踏まえた上で、事業を通じて解決を図ることができるマテリアリティ(重要課題)を特定しました。中期経営計画「NL Build-Up！2023-2025」に上記戦略を掲げ、整合を図り、マテリアリティに対応するKPI(指標)を選定し、持続可能な社会の実現と中道リースの成長と企業価値向上を目指し、マテリアリティに取り組んで参ります。

マテリアリティの特定プロセス

その
1

2030年の目指す姿を策定

中道リースのパーパス、強みや経営資源を再認識し、想定される将来の社会課題や事業環境の変化を見据えて、2030年の目指す姿(長期ビジョン)を策定。

その
2

マテリアリティ候補の抽出

2030年の目指す姿に到達するため、事業に影響を及ぼす可能性のある社会課題及び事業環境、評価機関等の重視する課題の観点から、対処すべきマテリアリティ候補を抽出。

その
3

重要性を評価し特定

その2で抽出した候補について、企業性と公共性の観点から中道リースにとっての重要性を評価し、最終的に7つのマテリアリティを特定。
外部有識者による評価を受けている。

その
4

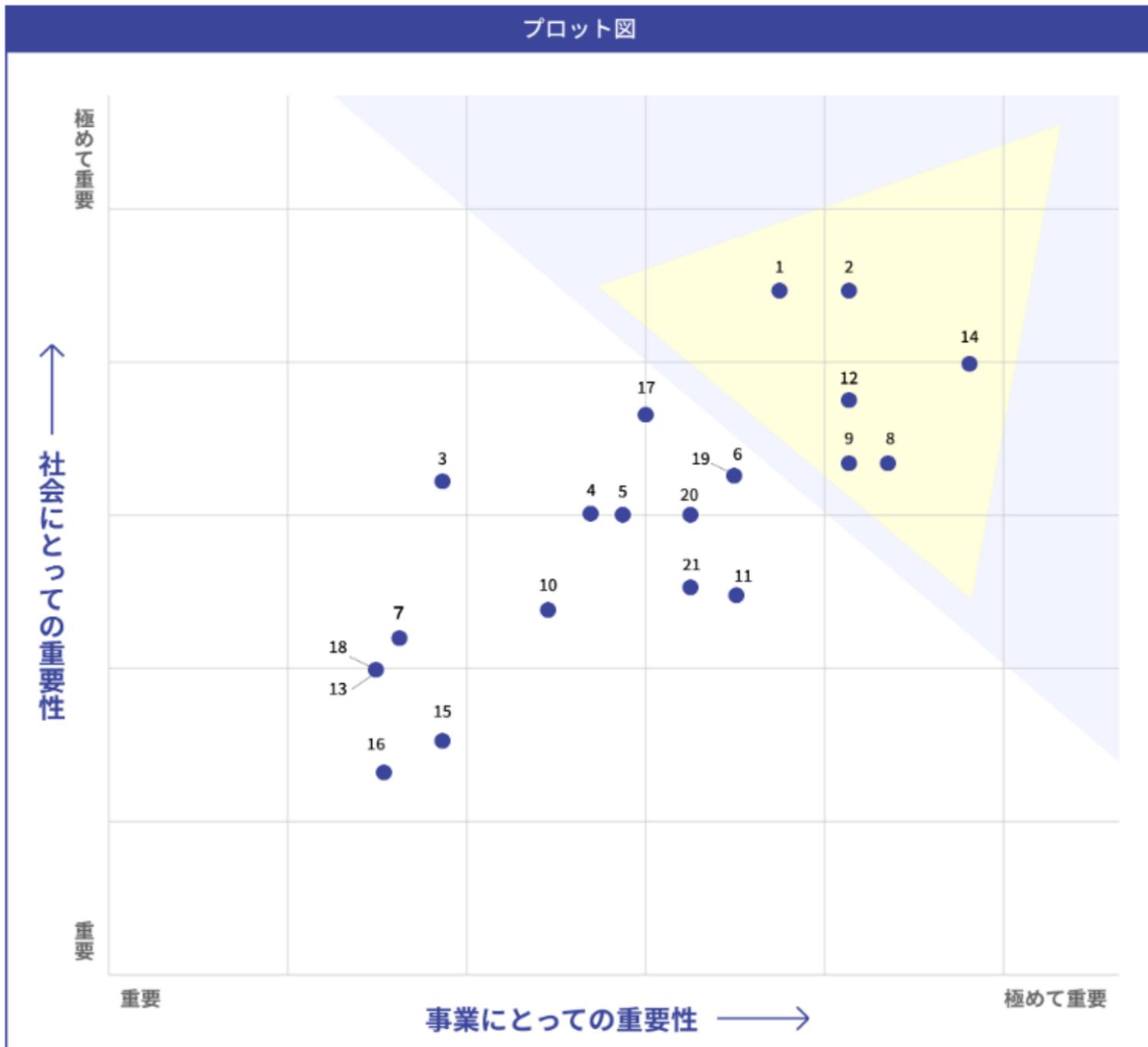
KPIを決定

7つのマテリアリティの取り組み成果や進捗を管理するKPIを選定し、取締役会承認のもと決定。

マテリアリティのアンケート結果

事業を通じた価値創造 / 価値創造の基盤	No.	マテリアリティの候補
【事業を通じた価値創造①】 気候変動対応	1	脱炭素・省エネの拡充
	2	資源循環・サーキュラーエコノミー
【事業を通じた価値創造②】 その他の社会課題への対応	3	地域の物流の効率化、物流課題の解決
	4	地域の良質な生活インフラの整備・運営
	5	地域の医療課題への対応
	6	多様なユーザーニーズに対応した新分野・新商品への取組
	7	技術革新・オープンイノベーションの活用
【価値創造の基盤①】 人的資本への取り組み	8	人材育成・能力開発
	9	働きやすい職場環境づくり
	10	ダイバーシティ（多様性の受容と尊重）
	11	働きがいのある職場
【価値創造の基盤②】 ステークホルダーとの関係性	12	持続可能なサプライヤーとの関係構築
	13	株主/投資家との積極的対話
	14	金融機関からの資金調達
	15	地域社会との良好な関係
	16	行政との良好な関係
	17	適切な情報開示
	18	人権への配慮
【価値創造の基盤③】 ガバナンス	19	コンプライアンスの徹底
	20	ガバナンスの強化（経営の透明性・公平性を高める）
	21	情報セキュリティ及びプライバシーの保護

マテリアリティ候補の重要性を評価



7つのマテリアリティ・KPI

マテリアリティ	KPI	関係するSDGs
<p>①脱炭素・省エネの推進</p> <p>地球温暖化による気候変動等の環境課題に対して、事業活動を通じ、環境負荷低減に貢献します</p>	<p>・ゼロカーボンシティ・サポートプログラムの契約社数 2023年30社、次年度以降前年10社増、2030年100社</p>	  
<p>②資源循環・サーキュラーエコノミーの実現</p> <p>地球の自然環境を維持するため、限りある資源を有効活用し、循環型社会の形成に貢献し続けます</p>	<p>・再リース移行率 80%以上</p>	 
<p>③持続可能な地域への貢献</p> <p>持続可能な社会の実現のため、顧客等を含む地域との連携が重要であり、事業活動を通じて元気な地域づくりに貢献します</p>	<p>・医療施設の新規開業件数 5件/年</p>	  
<p>④新分野・新商品への取り組み</p> <p>多様なユーザーニーズに応えるため、企業価値向上に資する新分野・新商品の開発に取り組めます</p>	<p>・新分野・新商品事業に対して10億/年の枠を設け開発に取り組む(2030年まで)</p>	 
<p>⑤人財育成と働きやすい環境づくり</p> <p>従業員や働き方の多様性を認め、働きやすい環境を整備します</p>	<p>・休業を取得した社員の復職率 100% ・高ストレス率 10%以下 ・メタボ所見比率 10%以下</p>	    
<p>⑥ステークホルダーとの良好な関係構築</p> <p>持続可能な事業活動の実現のため、ステークホルダーとの良好な関係構築が重要であり、積極的な対話により企業価値の向上に努めます</p>	<p>・サステナビリティレポートの発行</p>	 
<p>⑦ガバナンス強化</p> <p>透明性・公平性の高い企業経営を行い、コンプライアンスの徹底及び内部統制機能を強化し、企業価値の持続的向上の実現のため、コーポレート・ガバナンスに取り組めます</p>	<p>・コンプライアンステスト合格100%</p>	 

環境配慮型サービス

中道リースでは、資源の枯渇の抑制や地球温暖化防止に取り組んでいるお客様の設備投資に対し、リース契約や延払売買契約等の商品及びサービスの提供を通じて、環境に配慮した社会の構築に貢献したいと考えています。

自己評価の○は目標達成、△は一部達成、×は未達成を示します。

【環境配慮型サービス】

環境配慮型サービス	ESCO事業 省エネルギーサービス 省エネルギー関連補助金活用スキーム
-----------	---

	2022年度	自己評価	2023年度目標
環境配慮型サービス 総取扱実績(百万円)	327	×	500

【環境保全活動の推進】

	2022年度	自己評価	2023年度目標
グリーン商品比率の向上 (ユーザー向け)(%)	35.21	×	36.53

リース満了品の3R推進

リース期間が満了した物件は再リースを通じリデュース(廃棄物の抑制)に努め、返還された物件はリユース(再利用)を最優先とし、廃棄物となった場合でも適正処理にてリサイクル(再資源化)に取り組んでいます。

自己評価の○は目標達成、△は一部達成、×は未達成を示します。

【再リース移行率(リデュース)】

	2022年度	自己評価	2023年度目標
再リース移行率(%)	64.81	○	64.01

【リース満了物件リユース率】

リユース(売却件数)/リース満了件数

	2022年度	自己評価	2023年度目標
リユース率(%)	84.35	○	85.60

【廃棄物件リサイクル率】

リサイクル(kg)/廃棄総数量(kg)

	2022年度	自己評価	2023年度目標
リサイクル率(%)	97.47	○	97.27

【処理委託会社への訪問現地調査】

リース期間が満了し、止む無く廃棄となった物件の処分については、産業廃棄物処理委託業者の現地調査を実施、遵法制・リサイクル率等、多面的に評価し選定・委託しています。



[芙蓉リースグループとの「芙蓉 ゼロカーボンシティ・サポートプログラム」での業務提携について](#)

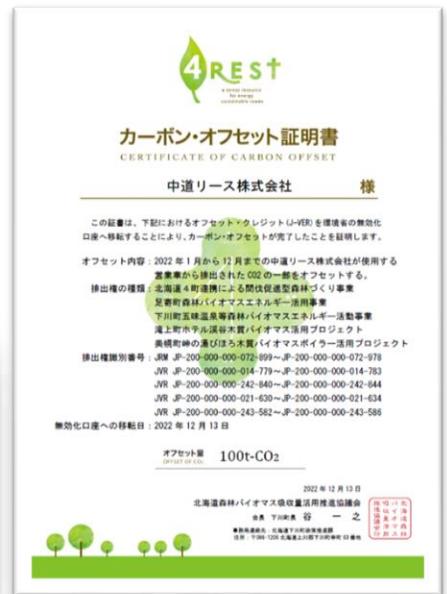
カーボンオフセットの取り組み

プロジェクト名	実施機関	オフセットの対象	CO2排出量削減値	総エネルギー投入量削減値
			(kg-CO2)	(Mj)
北海道4町連携による間伐促進型森林づくり事業	森林バイオマス吸収量活用協議会	営業車から排出されるCO2	100,000	1,504,347
サンタの森づくりプロジェクト	広尾町	本社で使用する電力から排出されるCO2	25,000	149,760

カーボンオフセット対象期間は2022年1月1日～2022年12月31日となっています。

【森林づくりパートナーズ基本協定】

当社は、2011年5月11日に「森林バイオマス吸収量活用協議会」（下川町、足寄町、滝上町、美幌町の4町で構成）と「森林づくりパートナーズ基本協定」を調印いたしました。この協定により、当社営業車の年間排出量の内、一定量を協議会と毎年オフセットしています。なお、当社が拠出した資金は4町が行う町有林間伐の資金に当てられ、森林の適切管理によるCO2吸収量の増大を目指す取り組みに役立てられています。



【サンタの森づくりパートナーズ基本協定】

2012年10月15日に、広尾町と「サンタの森づくりパートナーズ基本協定」を調印しました。この協定により、当社（札幌本社）が使用する電力から発生するCO2排出量の内、一定量を毎年オフセットしています。なお、当社が拠出した資金は広尾町の森林整備に役立てられています。

明治北海道十勝オーバル(北海道帯広市)に看板が掲出されています



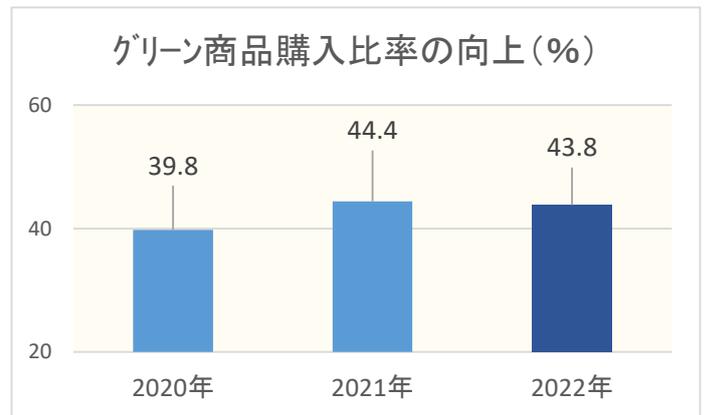
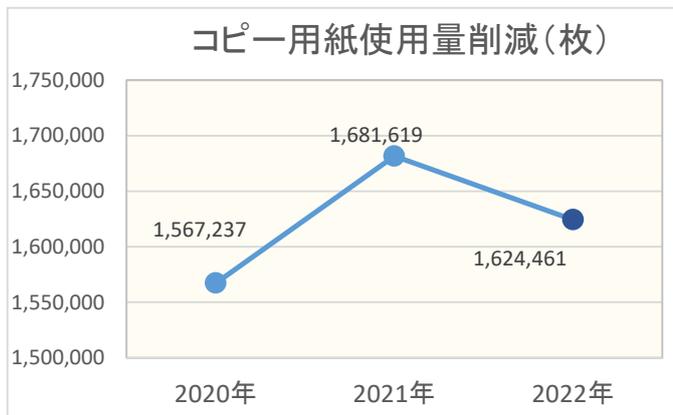
エコオフィス活動の推進

社会貢献活動や環境保全活動を推進し地域の発展に貢献する「良き企業市民」としての役割を果たしていきたいと考えています。

自己評価の○は目標達成、△は一部達成、×は未達成を示します。

	2022年度	自己評価	2023年度目標
コピー用紙使用量の削減(枚)	1,624,461	×	1,624,439
グリーン商品購入比率の向上(%)	43.8	×	42.7

測定対象は全社。2023年度の目標は過去3年間の実績平均値を基に設定しています。



【省エネ・省資源・環境汚染予防の推進状況】

内容	2022年度	自己評価	2023年度目標
電気使用量削減(kw)	226,388	×	211,038
電力のCO2排出量(kg-CO2)※1	120,665	×	116,000
紙の消費に伴うCO2排出量(kg-CO2)	8,317	×	8,317
総エネルギー投入量(Mj)※2	3,511,276	×	3,223,556
温室効果ガス排出量(kg-CO2)※3	308,214	×	286,000
一般廃棄物の発生量(t)※4	1.73	○	1.89
営業車両のCO2排出量(kg-CO2)	179,232	×	162,201
営業車の燃費向上(km/L)※5	16.4	×	17.2

測定対象は全社(カーボンオフセット前)。2023年度の目標は過去3年間の実績平均値を基に設定しています。

※1 電力会社公表の平均係数を基に算出

※2 Mj換算した電気、営業車の合計

※3 原換算した電気、紙、営業車の合計

※4 本社集計のみ

※5 目標値は企業内計画による

【労働環境の整備】

	2022年度	自己評価	2023年度目標
メンタルヘルスケアの実施率(%)	100	○	100
有給休暇取得率の向上(%)	70	○	68

《基本理念》

生物多様性は、人間や動植物を含むさまざまな生物が持続する為の源であり、人間社会に様々な恩恵をもたらしてきました。それは、次世代に引き継がなければならない財産です。

中道リースは、「経営の理念」「基本方針」「環境方針」に基づき、事業活動と生物多様性との関りを認識し、様々な事業活動を通じて生物多様性の保全と持続可能な利用を推進します。

《行動指針》

◆環境マネジメントシステム

生物多様性を環境マネジメントシステムにおける重要な要素と位置付け、すべての事業領域で生物多様性の保全と持続的な利用に努めます。

◆コンプライアンス

「企業倫理方針」に基づき、生物多様性に関する法令などを順守します。

◆教育

全役職員に対し、生物多様性に関する知識・法令などの教育を通して、理解の促進と意識の向上に努めます。

◆事業活動における取り組み

省資源・省エネルギー・再資源化・グリーン調達・環境汚染予防の推進など、「環境方針」に基づいた環境活動によって、生物多様性への環境負荷の低減に努めます。

◆社会貢献

生物多様性に関する社外の活動や社員のボランティア活動の支援、協力を努めます。

【植樹活動】

中道リースでは森づくりを通じて、地域の生物多様性の保全に取り組んでいます。



活動日：2022年4月29日(金)
活動場所：北海道長万部町
活動内容：前年に引き続き「NPO法人長万部町緑と樹を愛する会」様が主催する植樹祭に参加致しました。長万部町民の皆さんとともにサクラの植栽等を行い交流を深めました。



活動日：2022年5月22日(日)
活動場所：北海道北広島市
活動内容：「きたひろしま大志さくら会」様主催の植樹会に参加しました。北広島市民の皆さんと一緒にソメイヨシノの苗木の植栽を行いました。

環境美化活動

中道リースでは「身近な環境を守る」を合言葉に、周辺地域の清掃活動を行っています。



活動日：2019年10月8日（火）
活動場所：北海道 札幌市 本社周辺
活動内容：本社ビル周辺の清掃活動



活動日：2019年5月14日（火）
活動場所：北海道 札幌市 本社周辺
活動内容：本社ビル周辺の清掃活動

【環境意識向上に向けた取り組み】

当社は全役職員の環境意識の向上を目的とした支援体制をとっており、eco検定の受験、環境家計簿の作成を推奨しています。また、防災・安全運転意識の向上と環境面への影響について再認識するため、防災訓練や車輛事故テストを実施しています。



活動日：2022年10月13日（木）
活動場所：北海道 札幌市 本社
活動内容：避難訓練と消火活動訓練

【「救缶鳥」プロジェクトへの参画】

株式会社パン・アキモ様（栃木県那須塩原市）が実施する世界の飢餓対策支援活動に参画しています。プロジェクトの詳細はホームページ([http://www.panakimoto.com/kvucancho ir/index.html](http://www.panakimoto.com/kvucancho_ir/index.html))をご参照ください。

【インターンシップ生の受け入れ】

中道リースでは、学生インターンシップを受け入れています。学生の頃にはまだ馴染みが浅いリース業界を実際に当社の業務で触れてもらい、リース業界とは？を体験して頂きます。リース業は、特定の製品を販売するのではなく、顧客ニーズを掘り起こし、付加価値を付け提案することが重要な鍵となります。実際に疑似体験することで、きっとリースがより身近に感じられることと考えております。



活動日：2022年09月16日（金）
実績：8名